

# 泉蔵院だより

第29号

発行／真言宗 智山派 泉蔵院  
住所／〒340 0031 草加市新里町三三三  
TEL／048(927)5327  
FAX／048(927)7036  
令和三年三月発行

## コロナ禍の中で

昨年は新型コロナウイルス

によって私達の生活はいろいろと制約され、今年も年の始めより二回目の緊急事態宣言が発令になり巣ごもりの状態の中で収束の見込みもつかず暗い一年の始まりとなりました。

しかし過去を遡るとご存知のとおり天然痘やペスト、スペイン風邪等いろいろな病原(ウイルス)が流行った時代も数多くありました。それらを人類は新薬やワクチン



を作り克服してきたわけであり、今回も必ずや収束することを信じ

るものです。

そんな中で寺にとつてできることは限られています、それでもできることを行っていくことが勤めではないかと思えます。当山では昨年一年間、多くの行事が例年どおり行うことはできなくなりま

した。「春彼岸会法要」「花まつり」「盂蘭盆会合同法要」「大施餓鬼会」「大護摩供・落語会」「総本山参拝旅行」「除夜の鐘」と大勢の檀

信徒が参加する行事はコロナ対策によりいつものとおりに実施することはできませんでした。しかし「本山参拝旅行」以外は全て寺としては実施いたしました。檀信徒の参加な

しでの行事の実施は住職生活四十数年間の中で初めて

のことですが、それぞれ心を込めて住職、副住職、寺関係者によりお勤めいたしました。

特に年末年始、除夜の鐘はいつものような八百名を数える参加者の鐘つきはできませんでしたが、住職、副住職、総代を始め寺

関係者によつて皆さまの幸せを祈り百八回の鐘をつきました

た。そして元旦午前零時、二日午前十時、三日午前十時と正月三日間、不動堂において護摩を梵き「新型コロナウイルスの終息と皆さまの身体

健全」をお不動さまにお祈りし、更に聖天浴油供を二日、四日、六日(各午前四時～六時)の三日間、これまたウイルスの終息を聖天さまに祈願いたしました。



どちらの神社仏閣でもウイルスの一日も早い終息を祈願していることと思いますが、私は真剣に「祈るといふ事の大事さ」を示していかなければならないと思います。

今回の事態がいつ収束するのか、これを今、正確に予測できる人はいないと思いますが、長期戦になつてくるのではないかと思われま

す。長期戦になることによつて、これからの私達をとりまく環境も変らざるを得なくなるかも知れないと思

うのです。会社のオンラインだけでなく法事もオンラインで行っている寺も

現れており、又、今までも密葬や家族葬という名の少数による葬儀が増えています

が、更にコロナ対策という名の元に葬儀や法事を省略する傾向も見ることができ

ます。寺関係のことだけでなく今までの価値観(価値観とは何に価値を認めるかという考え方)が大幅に変化する可能性は十分にあり得るのではないかと思

イルが変化しコロナが収束したら全て前の状態に戻るといふことにはならないのではな

いか。この変化に対応できるものが生き残ることができる時代になつてくるのは間違

ないことと考えられます。思いつたことを書き述べましたが、このウイルス禍により誰もが心が委縮して堅くなり、人と人との対立や攻撃

性が高まつていくのではないか。例えば「マスクをしていない人を見ると嫌悪感や怒りの心が働らく」「家庭内離婚

が起きる」「会社の倒産により失業者が増え犯罪が増える」等。社会生活上のマイナ

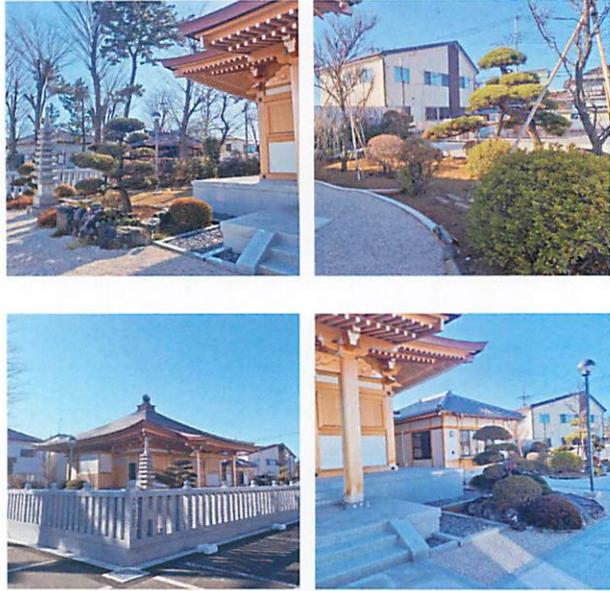
ス面もより多くなつてくること

が心配されます。こんな時こそ仏さまの教え(例えば助け合いの心、お陰さまの心等)によつて少しでも心を柔らかく保ち、時には人に寛容に接する心を持ちたいと思うものです。合掌



# その後の不動堂経過報告

令和元年十二月に建物の工事が終了し、その後、庭園工事、玉垣、門柱工事を行い、令和二年七月、全ての工事が終了しました。



次いで令和二年七月二十八日、新しく造仏した本尊不動明王三尊が完成し、京都より運ばれ不動堂須弥壇に安置、「入仏」されました。



そして令和二年八月八日、「本尊開眼法要」が厳修され、次いで八月二十八日午後三時より「初護摩供」が修されました。



## 不動堂建立銅板屋根寄付者

(令和二年三月十五日〜令和三年三月三十一日の追加分)

- |         |         |
|---------|---------|
| 演 叡 祐   | 藤 島 正 美 |
| 山口美呂子   | 藤 島 秀 樹 |
| 坂下輝子    | 岡 田 善 一 |
| 鈴木陽子    | 岡 田 明   |
| 竹内富士子   | 鷺 博 視   |
| 平 岡 治   | 郡 司 晃 浩 |
| 石田一夫    | 吉 岡 佳 徳 |
| 御詠歌講一同  | 吉 岡 徳 典 |
| 吉岡敏夫    | 関 七 ツ 子 |
| 浅 香 光 二 |         |
- ※受付順、敬称略

## 不動堂で車のお祓い

今までは車の交通安全祈願(車のお祓い)は本堂前で行っていましたが、これからは不動堂前で行います。(事前の申し込みが必要です)



毎月二十八日  
午後三時より

不動堂にて  
護摩供を  
ご修行!

令和二年八月より毎月二十八日午後三時より不動堂において護摩供法要をお勤めしています。現在は毎月十人から十五人位の参加者です。お参りされたい方は寺に前もって連絡ください。(コロナの関係で入堂人数に制限がありますので)

どなたでも(檀家以外の方でも)ご参加いただけます。

◆護摩供次第◆

- 一、智山勤行式 (全員で唱和)
- 一、護摩供
- 一、住職法話



令和3年2月8日午前10時、新里不動堂において本寺密蔵院(川口市安行)住職導師のもと護摩供法要が厳修されました。

密蔵院住職は当不動堂に「額装不

## 本寺住職による護摩供ご修行

動明王」(木村武山作)、そして境内に「石造九重塔」を奉納され、全てが完成した折には護摩供を奉修したい旨のお話があり、ここにその思いが実現されました。

当日は密蔵院住職山口正純師を始め副住職山口純雄師、職員河北師、佐瀬師4名により2台の太鼓による大迫力の護摩供が奉修され、その後、法話がなされました。

隨喜には当山住職、副住職、飯田総代、荒井総代、經典読誦会会員、御詠歌講員が参列し法悦に浴しました。

合掌



## 〈法事〉

現在、当山では新型コロナウイルスの感染対策を次のように行っています。

- 1、本堂内のイスは基本的には間隔を広くとるため十二席とさせていただきます。(ソーシャルディスタンス)
- 2、マスクは必ず着用願います。
- 3、本堂に入る時は入口で検温します。
- 4、手をアルコール消毒していただきます。
- 5、季節によって暖房又は冷房しますが、本堂内左右と入口の戸を少し開けて換気をします。

(37.5度以上の人は入堂できません)



## コロナ禍における法事、葬儀について

### 〈葬式〉

お葬式を行う場合も基本的にはご法事と同じ対策が必要になるかと思えます。

最近、お通夜をしない二日葬を希望する家が多くなりました。

また、コロナ対策としては理解できますが、できれば対策を充分に行った上で通夜、葬式を行うことをお勧めします。

何となれば、本来、「通夜とは邪霊(鬼神)の侵入を防ぎ、故人の霊を慰めるため

に線香の火を絶やさないようにしながら遺族や親族が夜通し故人のそばで過ごすものだからです。

それから念のために申しあげますが、檀家は寺より必ず「お戒名」をいただき「引導」(お葬式でのお導き)をお受けにならないと檀家とはいえず、お墓に納骨することはできなくなります。



法語

ア字の子が ア字のふるさと 癸ち出でて  
また立ち帰る ア字のふるさと

これはいつ誰が作ったのか分らない古い歌ですが、私達の命がどこから来てどこへ行くのか、死というものをどう考えたらよいのかについて答えていく歌です。

この「ア字」とは梵字の「𑖀」を意味し「本尊大日如来」を表しており、必ず書かれていた文字であり、全ての源、命の源を意味し「大きな命」と表現したらよいのではないかと思います。すべてを包みこむ大きな仏様の命。私達はこの大きな命である本尊大日如来から命を頂いてこの世に生ま

れてきた、もともと仏様の子どもの命です。その仏の子が父と母を縁としてこの世に生まれ、この世で人としての人生を過ごし、そしてまた懐かしい仏様のふるさとへ帰っていく。人の死とはそういうことだとこの歌は教えています。

ですから私達はいつまたこの世に生まれてこれるか分からない、この得難い人生を大切に生きていかねばならないのではないかと思います。生老病死(四苦)、歳をとつてくると誰もが自分の死、自分の最後について考えるようになりますね。

これを書いている私、住職も同じ思いを持ち、自分の死について最近よく考えるようになりました。この死の恐怖の思いに捕らわれた時、この歌を思い出してお唱えすると心が大きく解き放されたようになります。



合掌

令和三年年回表

一周忌	令和二年
三回忌	平成三十一年 四月三十日まで 令和元年 五月一日から
七回忌	平成二十七年
十三回忌	平成二十一年
十七回忌	平成十七年
二十三回忌	平成十一年
二十七回忌	平成七年
三十三回忌	昭和六十四年 一月七日まで 平成元年 一月八日から
三十七回忌	昭和六十年
五十回忌	昭和四十七年

編集雑誌

今回の寺だよりは先にも書いたようにこの二年間、檀家さんの参列した行事がないのでほとんど不動堂関係の写真や記事になりました。一日も早くコロナが終息し、また皆さんがお元気でお寺の行事に参加していただけることをお祈りしています。

●もしもの時の泉蔵院指定葬儀社

株式会社 グリーンセレモニー

●通話無料 フリーダイヤル 0120-82-5420

(お気軽にご相談ください。)